

七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.12 令和5年(2023年)2月21日

開校50周年記念マスコットキャラクターの仲間が到着しました！

本校のマスコットキャラクター「ななきち」「ななしば」が到着し、2月20日(月)の全校朝会で、お披露目をすることができました。

私たちが想像していた以上に可愛らしく、これから、本格的に仲間となります。式典当日にも、出席しますので、ご承知おきください。

また、この2人には、雌雄はありません。多様性の時代のジェンダーレスの象徴として、本校の目指す「やさしく」を体現する2人として、子供たちと共に学校生活を送ってもらいたいと思います。

開校60周年を目指す10年間にわたり、学校を訪問する皆様をお出迎えできるようにしたいと思います。子供たち同様に、大切な仲間として、たくさんの方々にかわいがっていただけましたら、幸いです。

どうぞ、これまで以上によりしくお願いいたします。



北秋田市との交流に向けて

先日の大雪の降った日の2月10日(金)、秋田県の北秋田市教育委員会政策監と推進監の3名、北秋田市立鷹巣小学校の校長先生、北秋田市立合川中学校の教頭先生ご一行の計5名の方が本校を訪問されました。

国立市と北秋田市は、北秋田市が市となる前から長きにわたり、交流を図ってきました。お互いの市が様々な分野で交流を図りながら、これまで関係を高めてきましたが、コロナ禍になってからは、交流を控え、これまでの流れが滞っていました。

昨年の10月に、本校の主幹教諭が北秋田市立鷹巣小学校に1週間の派遣研修として、受け入れていただいたことを契機に、改めて連携を図ることとなり、今回の学校訪問となりました。

前回の校長室便りにも掲載をしましたが、1月には、北秋田市教育委員会の教育長にもご来校いただいております。開校50周年の本校の子供たちにとって、新しい経験や体験のできる交流相手ができただことは、本当にうれしい出来事となりました。

具体的には、北秋田市立鷹巣小学校と本校の教職員及び子供たち同士の交流を検討・実施していくこととなりますが、息の長い交流としていきたいこともあり、来年度においては、試験的な取組が中心となります。まずは、教職員がオンラインで繋がることから始め、児童による学習活動でのオンライン交流等を検討していくことになると思います。それぞれの学校の取組が優先となりますので、無理のないところでの交流事業としてまいりたいと思います。

令和6年度の教育課程に反映させるべく、来年度1年間をかけて連携と交流をしてまいります。保護者や地域の皆様には、ご理解をいただけますようお願いいたします。



鷹巣小の校長先生と私

土曜授業参観(防災訓練)と学校評議員会

<土曜授業参観>

2月18日(土)には、今年度最後の土曜授業参観を実施いたしました。

今回の授業参観は、全保護者の方を対象にさせていただき、午前授業の中で参加いただく時間を割り振らせていただきました。現在のコロナ禍の状況は、感染者数等の減少などにおいて好転している中でもあり、可能な限り多くの方に一日でご覧いただけるようにいたしました。

防災訓練もかねて実施をいたしましたので、消防の方のご協力をいただきながら、起震車体験や消火訓練なども行い、自分の身は自分で守るための学びの時間となりました。

来年度においては、今回のような形式の授業参観や制限のない学校公開が行えることに期待しながら、保護者の皆様のご来校の様子と子供たちの取組の様子を見て回りました。

多くの保護者の皆様にご来校いただき、子供たちの様子をご覧いただけたことに、嬉しい思いであると同時に感謝申し上げます。ありがとうございました。

<学校評議員会>

午後には、本校の学校評議員の皆様にお集まりいただき、学校評議員会を行いました。

学校からは、今年度の最後の会に当たり、学校の取組における学校評価を報告させていただき、内容についての確認やご意見等をいただきました。

評議員の皆様からは、「継続は力なり」という言葉にあるように、様々な取組について継続的に取り組むことで、子供たちに様々な力が身に付くことになるとのお話をいただきました。また、学習の様子については、落ち着いて学習に取り組んでおり、多くの場面で安心できる様子であることを確認いただきました。

また、学校は、一人1台端末などを使用して、これからの時代を生きる子供たちに必要な力を身に付けさせていることや多くの学級で学習活動に取り入れている様子があること、タブレット端末を使用させるだけでなく、実際に書くこと等のバランスの大切さについてもお話いただき、学校の取組についてご理解やご意見、共感の言葉をいただきました。

更には、6年生の姿を通して、登校時等における下学年の子供たちを優しくリードしたり、助けたりする姿をご紹介いただき、本校の「やさしく」の取組が多くの子供たちに大きく反映していることのお話もいただきました。

本校においては、保護者や地域の皆様の積極的な関わりや見守りが子供たちによりよい影響力となっていることが大きな支えであり、来年度の教育課程や学校経営並びに運営において、たくさんの参考となるお話を伺うことができました。

評議員の皆様には、今年度の取組におけるご理解とご協力、そして、ご尽力に、衷心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

【校長のつぶやき】

今年度も残すところ登校日数にすると、1年生から5年生は21日、6年生においては、卒業式の分だけ1日多く22日となりました。開校50周年の年として様々にお祝いの取組を行ってきた令和4年度も、2月22日（水）の開校記念の児童集会と2月24日（金）の記念式典、3月23日（木）には、それぞれの学年の終わりとなる修了式、そして、3月24日（金）には、開校50周年の掉尾を飾る卒業式となり、この1年を振り返ると子供たちや教職員、保護者の皆様、地域の皆様と一緒に、お祝いの気持ちの溢れる1年となり、私の教員人生や校長職の中においても、忘れ得ぬ1年であることは間違いありません。

子供たち一人一人の成長を振り返ると、朝の登校時においても、学校内の廊下ですれ違う際にも、職員室や校長室に入ろうとする時でも、多くの子供たちにおいて、挨拶が意識されていて、自らできる子供たちだけでなく、なかなか自分からすすんでできない子供たちにおいても、心の中では意識している子供たちが多くなっている状況があり、この学校に来たときからの大きな変化でもあり、嬉しい限りです。また、教職員においても、子供たちに指導するだけにとどまらず、自らが率先して挨拶をする姿がありました。

また、学習においても、基礎・基本の定着において成果があり、学力調査の結果や児童の学習への取組に変化が見られ、子供たちの学習に取り組む姿に落ち着いた様子が多く見られるようになりました。先生方においても、「特別の教科 道徳」の校内研究等を通し、授業における工夫や楽しく分かりやすい授業への挑戦、一人一人を大切にしたい授業における支援など、この1年間を通して、子供も大人も変化と変容の1年となりました。私の中では、この国立七小に、いよいよ新しい土台が築かれつつあるという思いと次のステージに向かっていくためのスタートの時であるとの思いにあります。

2年前の令和3年の4月に、この国立七小に着任したときからずっと考えてきた、自分が校長として、この学校に来た意味を今改めて考えています。この2年で何ができたのか、そして、今の取組を改めて振り返りながら、来年度の取組をしっかりと定めているこの2月。

開校50周年を締めくくるこれからの取組を前にして、緊張感と期待感を心に感じながら、この令和4年度を最後まで走り抜きたいと思えます。♪♪♪♪♪♪♪

